

合格を果たすための方法を考える

－合格は、受験生としての自覚を持つことで決まる－

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

今回は、合格・不合格は何で決まるかという受験の話をさせていただきます。

高校受験、大学受験はもちろんのこと、私立中学校受験や公立の中高一貫校受験が盛んです。開倫塾には、1400 名の中学 3 年生が学んでいます。全員が希望する高校に合格できればよいのですが、そうでない方も時々います。当塾では、年度末に、中 3 生一人ひとりの詳細な報告書を書いてもらっています。書くのは、各校舎の校長先生・担任の先生で、それらをもとに次年度も同じことのないように反省・検討を加えています。

2. 受験生としての自覚を持つ時期と方法

(1)合格するのは、受験生としての自覚のある方です。一方、うまくいかなかった方は、はっきり言わせていただくと、自覚が足りません。では、いつ頃から自覚すればよいのでしょうか。大学への進学を予定している高校生の方は、高校 3 年生になってから自覚を持ったのでは遅いです。相当勉強しなければいけませんから、高校 2 年生の今頃、つまり 4 月頃に受験生としての自覚を持つと、ほとんどの大学に合格できます。

(2)中学生の場合は、入るのが易しい高校については、中学 3 年生の今頃でもよいかもしれません。しかし、難しい高校であったり、また、自分の学力がその高校の合格レベルまで至っていないときは、中学 2 年生の今頃から受験生としての自覚を持って下さい。2 年間かければ、どこの高校にも合格できます。

(3)小学生の私立中学校受験についてもお話します。栃木県内の私立中学校入試は驚くほどは難しくありませんし、入試の実施される 11 月～12 月頃までにはまだ 7～8 か月もありますので、きちんと勉強するというのであれば、6 年生の今頃からでも大丈夫だと思います。ただし、首都圏にある非常に難しい私立中学校受験を予定している場合は、小学校 4 年生くらいから、本人も保護者も相当勉強しないと、なかなか合格は困難です。

(4)ですから、できれば私立中学校や中高一貫校受験は 5 年生から、高校受験と大学受験は中学・高校の 2 年生から、自覚を持って受験勉強を始めるのが望ましいと言えます。2 年間かければ力が相当つきますので、受験の 2 年前から勉強に取り掛かることを、私はお勧めします。高校 3 年生、中学校 3 年生、小学校 6 年生になると、本番までは 7～8 か月しかありません。一所懸命にやればある程度のところまでは

いきますが、皆も同様にやっていますので、合格はかなり難しくなります。最後の頑張りを頼りにするのではなく、早目早目に着手していただけると有難いです。

(5)どのようにして自覚を持ったらいいかというと、一番簡単なのは、どこの大学、高校、私立中学校、中高一貫校を受けるのかということを明確にすることです。私は〇〇校に合格したいという具体的な学校名を挙げることです。具体的な学校名を念頭に置いて勉強するのと、そうでないのとでは、効果のあらわれ方がずいぶん違います。ですから、「〇〇校に行きたい」という意欲を持って下さい。

(6)また、その学校に合格するためにはどのくらいの成績が必要かということは、事前にかなりわかります。そこで、現在の自分の成績と比べて、どのくらいのギャップ(差)があるかを認識し、それを埋める努力をすることも大事です。差、具体的には偏差値がどのくらい足りないのか、上げるにはどうしたらよいか、上げ方はいくらでもありますので、まずは自覚することです。

3. おわりに

これまでの話をまとめると、

- ①できれば本番の2年くらい前から、受験生としての自覚を持つ。
- ②具体的な学校名を念頭に置く。
- ③成績をどのくらい上げれば合格できるのか。上げなければならない成績の幅を具体的に自覚する。

となります。

これがしっかりできれば、大体のところは合格できます。頑張りましょう。

以上